

台東区民憲章 草案 パブリックコメントに対する回答について(案)

お寄せいただいたご意見の要旨	回答
	<p>区民憲章には、区民みずからの主体的な行動を促進する役割があります。そのため、区民憲章の作成にあたっては、幼い子どもからお年寄りまで読む人誰にとっても「心が動く」「心が弾む」「心が温くなる」言葉を大切にしました。</p> <p>また、台東区民憲章の本文は、いずれも20～23文字の5つの条文で構成されており、各条文とも表現形式・リズム感を統一しています。</p>
<p>バランスが取れており、一本芯が通っている。 また、誰にもわかりやすい。</p>	<p>ご指摘を受けまして、前文の「より素晴らしいまちを目指し」を「伸びゆく住みよいまちを目指し」とし、より未来への志向性を前面に出しました。</p>
<p>懐古的・保守的な印象を受ける。</p>	<p>前文では、松尾芭蕉の句を引用し、台東区の地理・歴史・文化を表現しました。また、「磨き抜かれた匠の技」では、伝統工芸を始め、製造業や、卸・小売業など多様な産業の集積に支えられた台東区の地域経済の活力を、「人情あふれる暮らし」では、温かな区民性を表現しています。</p> <p>また、本文についても、先人が築いてきた文化や環境を「たからもの」と表現したり、年間3千万人以上の人が訪れる観光のまちとして「おもてなし」を表現したり、随所に台東区らしさを盛り込んでいます。</p>
<p>台東区らしさが伝わらないのではないか。</p>	<p>台東区民憲章は「江戸の昔、」から始まる前文と、5か条からなる本文で構成されています。前文・本文にはそれぞれ役割があり、前文には、台東区の歴史や地理、台東区の特徴(台東区らしさ)、誇るべき点などを表現することが求められ、本文では区民生活の目標や理想・願いを表現することが求められます。</p> <p>そのため、本文は抽象度が高く、初めて読むと深みを感じられない、具体性が乏しくなじみにくいと感じられる面もあるかもしれません。</p> <p>しかし、読む人によって様々な解釈が可能となり、その人なりの取り組みを促進するという長所もあります。是非、声を出して繰り返し読んでみて下さい。</p>
<p>区民憲章全体の印象・感想について (20件)</p> <p>気取った文で、なじみにくく、深みを感じられない。実践活動に関する記述が必要ではないか。</p>	<p>台東区は、他ではみられない多彩な歴史・文化資源に恵まれ、多くの人々が訪れています。</p> <p>この先人が築いてきた文化や環境を台東区の「たからもの」ととらえ継承していくことを謳う条文が、最も台東区らしいものと考えました。</p> <p>なお、「たからもの」はそれだけに限定されるのではなく、母親にとっては自分の子どもであるように、それぞれが大切にしているその人なりの色々な「たからもの」を思いうかべていただくこともねらいとしています。</p>
	<p>副題を考えると、「いきがいを…」の条文が最初に謳われるべきではないか。</p>

新たに盛り込んでほしい言葉・内容について (16件)	平和や海外との交流をいれたほうがよいのではないか。	あしたへという副題をつけ、未来へつなげていきたい思いが込められたこの憲章には、前文から本文を通じて、平和の大切さという思いが脈打っています。 また「おもてなしのえがお…」の条文に、海外からのお客さまとの交流も表現されています。
	環境保全や環境美化の精神をいれたほうがよいのではないか。	ご意見の、環境保全、環境美化は本文「みどりをいつくしみ」の条文に趣旨は盛り込まれています。 本文をあえて抽象的な言葉で表現しているのは、読む人によって様々な解釈をして、その人なりの取り組みを行ってくれることを期待したからです。
	ルールやマナーの遵守など、もっと具体的な言葉で努力目標を掲げたほうがよいのではないか。	区民憲章の本文は、読む人によって様々な解釈が可能となり、その人なりの取り組みを促進することをねらいとして、抽象的に表現しております。
	台東区をイメージするインパクトのある具体的な文言として、本文に歴史、伝統、下町、水、台東文化、文学、文化、職人、安全、安心などをいれたほうがよいのではないか。	台東区民憲章の前文・本文にはそれぞれ役割があり、前文には、台東区の歴史や地理、台東区の特徴(台東区らしさ)、誇るべき点などを表現することが求められ、本文では区民生活の目標や理想・願いを表現することが求められます。 そのため、台東区らしさはどうしても前文で表現されることが多くなってしまいます。しかし、そのような役割を踏まえつつ、本文においても抽象的な言葉でありながらも、台東区をイメージできるように出来る限りの表現をいたしました。 なお、ご提案の文言はそのままの形では使われておりませんが、趣旨については、歴史と伝統・下町・台東文化・文学・文化・職人は前文に、安心・水・安全・おかげさまは本文に含まれております。
	5つの条文の文頭がそれぞれ「た」「い」「と」「う」「く」から始まるように、頭韻を踏む	本文は、声に出して唱えることで具体的なイメージを喚起することができます。頭韻を踏んだ憲章は、区民会議でも提案があり議論しましたが、声に出して読んだ場合にその効果は薄れるため、採用には至りませんでした。
	地域の宝としての子どもを健全に育てる思いをいれたほうがよいのではないか。	人を健全に育てようという心の大切さを謳っている「いきがいを はぐぐんで～」の条文に趣旨が込められているものと考えます。
	高齢者へのやさしさをいれたほうがよいのではないか。	高齢者を含め、だれもがあたたかな心で安心して過ごせるようにすることが重要であると考えました。 こうした趣旨を踏まえ、本文では、「おもいやり ささえあい あたたかなまちにします」と謳っています。
	命の大切さをいれたほうがよいのではないか。	本文「みどりを いつくしみ～」の条文では、緑など自然を大切に愛する気持ちがこめられており、「おもいやり ささえあい～」の条文とあわせて、ご意見にある「命の大切さ」も伝えていくことができるものと考えています。
まちへの誇りや、感謝の心をいれたほうがよいのではないか。	前文において、台東区内の人々に向け、自分たちが住んでいるところが誇れる場所であることを改めて自覚できるよう、先人が築いてきた文化や環境など台東区の特徴を盛り込みました。 それを受け、本文「たからものを うけつぎ～」の条文では、先人が築いてきた文化や環境をたからものとして受け継ぎ、感謝と敬意を払う心の大切さを謳っています。	

副題について (4件)	将来への期待を感じられてよいが、意味がきちんと通じない危惧もある。	「あしたへ」という副題は、現在台東区に関わる人全て、そしてこれから台東区に関わる人全てに対して送る未来へ向けた表現です。また、次代を担う子どもたちに輝かしい未来へのメッセージとして伝え、この台東区民憲章が、永遠に語り継がれてほしいという思いをこめました。
前文について (20件)	芭蕉の句は、台東区にふさわしいが、出典の記載が必要ではないか。	前文において、台東区の歴史や場所を表現するにあたって、松尾芭蕉の俳句「花の雲 鐘は上野か 浅草か」を活用することが提案されました。
	芭蕉の句は、台東区を象徴する名句か疑問があり、引用しなくてもよいのではないか。	この句は、今も台東区に残る情景を的確に詠んでおり、区民会議において台東区の歴史・地理・文化を端的に表す表現として高く評価されました。また、俳句を引用することで、他にみられない個性的な憲章として広くアピールしていくことも期待できます。
	地名が入っていることで、区の認識度向上に寄与すると考えられるが、古いイメージを印象づけてしまう懸念や、特定の地名表現がよいのか疑問がある。	検討の結果、芭蕉の句が台東区を的確に表現していること、また前述のような松尾芭蕉の句を引用した場合の効果の大きさを尊重し、その引用を決めました。なお、この句が台東区を的確に説明する表現ではあるけれども、大切なのは句の中身であるといった意見や、個人の名前をとりあげるとは憲章になじまないのではないかとといった意見から、松尾芭蕉の名前にはあえて触れないこととしました。
	”先人”はもっとやさしい日本語に置き換えた方がよいのではないか。	「先人」に代わる言葉としては、前代の人、昔の人、前人、古人、先祖等がありますが、これらの中で語感・全体とのバランスを考慮すると、「先人」という表現が最も適しているものと考えます。
	前文の「わたくしたちのまち台東区は」を、「わたくしたちの台東区には」とする方がよいのではないか。	ご意見を反映し、「台東区は」を「台東区には」に変更いたしました。また、ここでの「台東区」は、自治体としての「台東区」ではなく、区民等の日常生活の場としての「台東区のまち」を指すため、あえて「わたくしたちのまち台東区」と表現しました。
	「あちらこちらに」は、格調高い前文に似つかわしくないのではないか。	「あちらこちら」という言葉によって、特定の場所、特定の世代に限られず、台東区の様々な場所において「磨き抜かれた匠の技」や「人情あふれる暮らし」が息づいていることを表現しました。またこの言葉によって、文章に独特の語感、リズム感を与えています。また、台東区らしい、きどりのない親しみやすい表現と考えます。
	「匠」については、「職人」の方が適当と考えられ、また、台東区の商業的要素が欠落した印象をうける。	「磨き抜かれた匠の技」は、伝統工芸を始めとする製造業だけではなく、卸・小売業など多様な産業をイメージしています。「職人」とすると、製造業それだけに限定され、他業種の産業が薄れてしまうと考えました。また匠は伝統的な手法をただ受け継ぐだけではなく、新しい手法に挑戦してよりよいものを生み出しており、進取の精神についても表現しています。
産業振興における「進取の精神」の具体化が必要ではないか。		
明治・大正・昭和期の文化についての言及も必要ではないか。	ご意見にあります、明治・大正・昭和期の文化についても、前文において、先人が作り上げた多彩な産業や文化などへの尊敬の念を示す形で盛り込んでいます。	

<p><本文の内容について> たからものをうけつぎ こころゆたかなまちにします (9件)</p>	<p>「たからもの」については、抽象的で意味がわかりにくい。 「かけがえのないもの」、「ぶんか」など別の表現に変えたほうがよいのではないか。</p>	<p>前文で説明している「先人が築いてきた文化や環境」をかけがえのない「たからもの」ととらえました。しかし、それだけに限定されるのではなく、母親にとってはそれが自分の子供であるように、それぞれが大切にしているその人なりの色々な「たからもの」を思い浮かべていただくことをねらいとしました。</p>
<p><本文の内容について> おもてなしのえがおで にぎやかなまちにします (9件)</p>	<p>「うけつぎ」については、「たいせつに」と表現を変えるほうがよいのではないか。 また、受けつぐことで、心豊かな街になるのかという疑問もある。</p>	<p>この条文では、先人が築いた文化や環境のみならず、その人なりの色々な「たからもの」を受け継いでいこうという行動や気持ちの大切さをうたっています。それぞれが大切にしたい「たからもの」があり、そのために行動できることが、心豊かなことであると考えられます。</p>
<p><本文の内容について> おもてなしのえがおで にぎやかなまちにします (9件)</p>	<p>「おもてなしのえがお」について、「えがおでおもてなし」や「笑顔のおもてなし」と表現を変えてはどうか。 また、「下町の」や「あいさつ」を加えて表現してはどうか。</p>	<p>台東区においでになる全ての方々をおもてなしする心の大切さを、「おもてなしのえがお」という言葉で表現しました。おもてなしには色々な形が考えられますが、その象徴として「えがお」という言葉を使っています。</p>
	<p>「にぎやかなまち」については、地域によるイメージの違いや、「しずかなまち」を望む考えもある。 また、表現としては「にぎわいのある」と変えるほうがよいのではないか。</p>	<p>この条文はおもてなしの心でたくさんの方々に台東区に来てもらいたいという思いをこめた条文です。閑静なしずかなまちをのぞんでいないという趣旨ではなく、また、特定の地域だけを対象にしたものでもありません。 「にぎわい」と「にぎやか」は言葉の意味的には同義ですが、より多くのひとが行きかうまちをイメージし、語感や語調を検討した結果「にぎやか」と表現しました。</p>

<p><本文の内容について> おもいやりささえあい あたたかなまちにします (5件)</p>	<p>誰が何をおもいやるのかわかりにくい。 表現としては、「安心・安全」を加え、「おたがいをみとめあい おもいやりのあるまち」、「おもいやりたすけあい なごやかなまち」などと変えるほうがよいのではないか。</p>	<p>台東区は、昔から地域の中で困ったことがあれば、皆で支え合ってきました。この条文には、誰か特定の対象のみに限らず、こうした思いやりや支え合いにより、だれもが安心して安全に過ごせるあたたかいまちをつくりたいという趣旨が含まれております。</p>
<p><本文の内容について> みどりをいつくしみ さわやかなまちにします (3件)</p>	<p>「みどり」に「いつくしむ」は、適当かどうか疑問があるほか、表現としては、「環境に優しい 爽やかな街にします」や、「緑と水を大切に」のほうがよいのではないか。</p>	<p>この条文では、身近な緑などの自然を慈しむ心の大切さを謳っています。このため、水を含む自然環境全般が「いつくしみ」の対象であると考えています。 「いつくしみ」という言葉には、愛情を注ぐ、大事にするという意味が含まれることから、台東区らしい優しさにあふれた個性的な表現として使いました。</p>
<p><本文の内容について> いきがいはくぐんで すこやかなまちにします (6件)</p>	<p>「いきがい」は「はぐくむ」ものかという疑問がある。 また、「生き甲斐のある 活力のある街」と表現を変えるほうがよいのではないか。</p>	<p>「いきがい」は、自らが育むものでありますし、また、他の人の協力によっても実現するものです。 「いきがい」は老若男女、すべての人々にとって大切なものです。 そこに住む全ての人々が、常に「いきがい」を持ち、育むことに協力しあいながら、その目標に向かっていきいきと暮らすことで、人の心がいくつになっても「健やか」でいられることを願い表現しています。</p>
<p>本文のひらがな表記について (33件)</p>	<p>ひらがな表記は、読みにくい。 漢字仮名まじり文が本来の日本の文化である。 読み手の対象により、漢字とひらがなを使い分ける等の配慮が必要ではないか。</p> <p>ひらがな表記には、新鮮さ、やさしさ、ぬくもりが感じられる。</p>	<p>誰もが、声に出して読みやすく、わかりやすい、そして、親しみやすく、一人ひとりの解釈でイメージができるものにするために、漢字仮名交じり文の良さは理解した上で、思い切って、すべてひらがな表記としました。 また、小さな子供や知的障害者の方でも親しめることができ、台東区の優しさをアピールできると考えました。 例えば、「たからもの」とひらがなで表記することで、物に限定されることのない有形無形のイメージをふくらませることができます。 また、「まち」からは街・町、「あたたかな」からは暖かな・温かな、など自分なりの解釈ができます。 この憲章を読んで、各々が感じ取っていただけるイメージから、台東区をよりよいまちにしていくために何かをしていこうという様々な行動につながっていただけることを期待しています。</p>
	<p>ひらがな表記の趣旨は理解できるが、強調したい部分の字体を工夫したり、縦書きに統一するなど、読みやすさの配慮が必要ではないか。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、文章は縦書きとし、より見やすくなるように分かち書きとしました。</p>

	<p>区民憲章策定後の普及・浸透が課題である。 普及していくには、解説文を作成し、具体的な実行案を提示したり、点字版・外国語版を作成するなどの工夫が必要ではないか。</p>	<p>ご意見の通り、区民憲章を広く区民の皆様にご覧いただき、その理念を理解していただき、実際に行動していただくための普及啓発活動が重要となります。 区民会議では、現在、副読本・解説本の作成を進めております。他のご提案についても、ご提案の趣旨を踏まえ、検討していきたいと考えております。</p>
<p>区民憲章の策定方法及び普及活動の必要性等について (28件)</p>	<p>区民憲章策定において、区民の意見を聴く姿勢が欠けていないか、また区民の意見を反映させているのか。</p>	<p>区民会議では、全ての区民会議の会議資料、議事概要を台東区のHPで公開するとともに、常にご意見を募集してきました。 また、無作為抽出の区民1000名を対象としたアンケートや、区内の小学校5年生、中学2年生を対象とした子どもアンケートの実施、今回のパブリックコメントの実施、町会連合会への説明や区民委員の地元での活動などを通して、区民の皆様のご意見の収集を図ってきたところです。 頂いたご意見につきましては、委員全員が情報共有したうえで、可能な限り趣旨を踏まえ、区民会議において検討してまいりました。</p>
	<p>区民憲章策定は、目的が不明確であり不必要。 憲章策定よりも、個別課題に対応した具体施策の検討を優先すべきではないか。</p>	<p>台東区では、平成16年10月に新たな基本構想を策定しました。そこで描かれた将来像、「にぎわいいきいき したまち台東」を実現していくためには、区民の方々と区が、共に考え、汗をかき、行動していくことが大切であるという意見を内外からいただきました。こうしたことから、基本構想の理念を共有するためにも、区民の誰もが抱く区やまちへの思いや将来への決意を、区民の声として宣言していただく区民憲章を区民の皆様によって策定していただくこととなりました。</p>

なお、その他区民憲章に関する事項以外の、区政への要望など11件の貴重なご意見をお寄せいただいております。

ご協力ありがとうございました。